



静岡県の健康寿命の延伸に向けた提言 ～社会健康医学の研究推進～ (概要)

平成29年2月

「社会健康医学」基本構想検討委員会

静岡県の健康寿命の延伸に向けた提言（概要版）

社会健康医学を推進する背景

○ 超高齢社会、社会保障費の増大が進行する中で、科学的知見に基づき健康寿命の延伸に向けた取組は急務

現状① 高齢化の進展と平均寿命と健康寿命の差

- ・ 県内の高齢者は100万人を超え、4人に1人は65歳以上、平成52年には65歳以上は3人に1人となる見込み
- ・ 日常生活が制限される期間(平均寿命と健康寿命の差)は男性で約8年、女性で10年以上

高齢化率

27.8%

平均寿命と健康寿命の差

男8.35年

平均寿命と健康寿命の差

女10.89年

現状② 医療費・介護費の拡大

- ・ 平成21年から27年までに、静岡県の医療費(国民健康保険+後期高齢者医療)は6,148億円から7,350億円へ増加
- ・ 同じ期間に、介護費も2,001億円から2,672億円へ増加

医療費

6年で1.2倍

介護費

6年で1.3倍

現状③ 高齢者の定義と認識の差異

- ・ 高齢者を65歳以上と定義した昭和30年代から、男女とも平均寿命が15年以上延伸し、健康で活躍する方が増え意識も変化

男性の平均寿命(昭30⇒平22)

64.12歳➔79.95歳

女性の平均寿命(昭30⇒平22)

68.63歳➔86.22歳

課題

様々な施策に取り組んできたが、更なる健康長寿施策の展開を図るためには…

科学的知見の不足

調査結果に対する要因分析など科学的視点が不十分

人材の不足

医療・健康データを分析する人材の育成が進められていない

仕組みの不足

行政、医療機関、大学などが行う個別の取組を集約化・体系化する仕組みがない

II 社会健康医学の推進

○ 科学的知見への着目、人材育成、仕組みづくりにより静岡県の健康寿命の更なる延伸を目指す。

解決策① 研究の推進

- ・ 科学的な視点からの要因分析・施策の創出
- ・ 健康寿命延伸施策等の整理・体系化
- ・ 医療ビッグデータの収集や分析

解決策② 人材の育成

- ・ 医療・健康データを分析し、科学的な視点を持って取組や施策を担う人材の育成
- ・ 研究者や医療専門職などで、手法・知識を習得し、治療等現場に役立てるリーダーとなりうる人材の育成

解決策③ 拠点となる仕組みの構築

- ・ 大学や研究機関と連携し、データ収集と教育、情報発信の中心となる研究の拠点づくり

社会健康医学の研究

期待される成果

医療への成果

- ・ 医療水準の向上
- ・ 医師の研究環境の整備
による県外医療専門職の
誘引・定着
- ・ 地域医療を支える
医師などを通じた知識や
技術の県民への還元

健康づくりへの成果

- ・ 健康意識の醸成、
意識の改革
- ・ 社会健康医学の
知識を有する人材の輩出
- ・ 医療費、介護費の抑制
- ・ 県民の満足度向上